

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所</b>	グループホーム ひだまりの家
日付	平成19年3月31日
	特定非営利活動法人
<b>評価機関</b>	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	在宅介護経験12年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)</b>	

### 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>一人ひとりの個性を尊重し、その人らしい生活を送れるように、ゆったりとした時間を共有し、安心と温もりを感じる生活、楽しさと喜びを味わえる生活」を支援する事を目指している。管理者は認知症専門病院で認知症患者と関わりながら得た知識を基に、グループホームの企画・計画から施設的设计段階から携っており、職員と共に利用者のレベルにあった居場所を提供しようとしている。</p> <p>この理念の下で、短期・長期の計画を目標を立て、具体的且つ客観的な業務改善の項目を職員全員で共有しながら、認知症ケアの質の向上と利用者・家族に対するサービスの向上に努めてもらいたい。</p>		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>テーブルに並んでいるリビングルームとテレビの置いてある畳の間で、利用者は自分の居場所を設けてそれぞれの時間を過ごしている。人の気配を感じながらも少しの距離感を保ちながら、落ち着いた自分の居場所を持っているようだ。食事の時は、大小のテーブルを組み合わせ、外が見えるように工夫したりして一人ひとりの居心地を考えて、食事が楽しく食べられるよう考慮してある。</p> <p>外部には花壇や菜園があり、またウッドデッキもあり、外出が無理な時でも自然に触れ合えるよう設計されている。外出できない人にも、戸外で過ごす時間を作ろうとしている。利用者の居室は3室ずつブロックになっており、その3ブロックが区別されていて、町家の感じがする。建物の構造や建材の使い方が、この地域の家並みによくマッチしていて、地域に密着した趣を感じる。</p>		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### 外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
<p>設立して4年経過したが、利用者と管理者、職員が余り変動なく過ごせている。認知症専門病院に付属しての立地となっているので、病院の医療面や院長始め職員との交流も盛んで、利用者も病院の方のボランティアの来訪などにも参加したり、病院の患者もホームに来てくれているので楽しい時間を過ごす事もできる。</p> <p>地域の人や近所の人、学校に通う生徒等と散歩したり、通学の途上で挨拶したり、声かけし合ったりしている。また、夏祭りや保育園の運動会にも招待され、参加していて、地域にも根付いてきたと思われる。</p> <p>唯、残念なのは、あの元気で庭をつかったり、菜園で野菜や果物を育てていた利用者の皆さんも、当初からすると高齢化や認知症の重症化は避けて通れない。このようにグループホームとしての生活の場で、利用者一人ひとりの希望に応じたその人らしい生活を支援したり、それぞれの人にどのような自己実現、自己満足を味わってもらえ、きめ細かなコミュニケーションをどのようにしていけば良いか、利用者の共同生活の場と個人生活の調和をどのようにして行くか等の課題が山積みしていくであろう。</p> <p>認知症の専門病院を母体に、そのグループホームでの利用者職員との認知症ケアや本人や家族に対するサービス提供について、医師、看護師、介護士その他の専門職で、認知症に関する「医療、リハビリ、生活、地域」という連帯関係がどうあるべきか、認知症を患った一人の人間としてどうしていけば良いのか、是非専門家集団として研究していつてもらいたいと熱望する。そして、その結果を情報公開してもらいたいと思う。</p>
特に改善の余地があるとおもわれる点
<p>介護計画の中で、利用者をどのようにケアしていくか、具体的な支援項目を短期、長期の計画を設定していくが、認知症になってしまった原因の病気によって、その人をどのようにして支援していくかは、その人の状態がどのように変化していくのか等、ある程度医療専門的に見通すべきところもあると思う。一人の人間が認知症になって、生活していく過程の中で、どのような支援をしていったら良いのかは介護職に任せず、医師の立場でも積極的に介入して、介護計画を試行的に考えていく機会を持ってもらいたいと思う。</p>

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>調理を職員と一緒にしている人、私は散歩に行きたい、洗濯物を畳むことは出来る、「ごゆっくりして下さい」もてなしの表現と対応が出来る、「この人にはようお世話になっているよ」と利用者同士で気配りが出来る等それぞれの人の暮らしの中で自分の今出せる能力でホームの仕事や利用者同士の交わりに関わっている。園芸や餅つき時には、経験豊富な利用者には色々な事を教えられると職員から聞いた。今までの経験や能力を暮らしの中に活かして、喜びや誇りを持って職員・利用者共に努めている姿を見た。</p> <p>利用者のケアマネジメントについて、最も重要と考えている事を事前にアンケートで問うたところ、「利用者の持っている経験や能力の持続」と答えた。各自の持っている能力を持続していくよう援助するという事で、今のホームの利用者の実態からすると当然のことだろうと思うし、ホームでの職員の様子からも納得できた。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<p>訪問調査当日は、家族の紹介で来訪しているエンゼル劇団が慰問に訪れ、歌や踊り、時代劇を披露してくれ、利用者も職員も喜びと大きな声と拍手で楽しい一時を過ごした。このような方が訪れてくれると利用者はホームだけに見る表情とは比べ物にならない位豊かな。人間誰でも喜怒哀楽の気持ちはどのように持つか大切だ。</p> <p>認知症になると、自分から話しをくみだてることが難しくなるので、自分から話そうとしない。これを誤って話せない決め付けられる人も多い。職員も仕事で大変だろうが、1日10～15分間でも良いので、利用者向き合って話しに熱中できる時間をつくってあげて欲しい。話すきっかけを投げかけてあげれば、認知症になっても話に集中でき、結構話ができる。「今日は話しが出来た。気持ち良かった」と話してくれる認知症本人の言葉を良く聞く。人間、心の中を声で表現してもらって喜びを実感させてあげて欲しい。</p>		